

【ノロウイルス検査Q & A】

★Q 1. ノロウイルス検査をしたいのですが、検査容器は直接そちらに取りにいてもかまいませんか？

A 1. はい、かまいません。平日の8:30~12:00、13:00~15:30までの時間帯でしたら1階の総合受付で、容器をお渡しできます。

★Q 2. 容器を取りに行った時、その場で採便して提出しても良いですか？

A 2. 陽性だった場合の感染拡大を防ぐため、当協会内での採便はお断りしております。持ち帰っての採便をお願いします。

★Q 3. 検査はどちらの検査法で受けたほうが良いですか？

A 3. 症状のない方や、一度ノロウイルスと診断された方が、一定期間をおいて、いまだウイルスを保有しているかを確認する場合は、遺伝子検査をおすすめします。食品を取り扱う業務や、介護などに従事されている方で、日常の健康管理として、定期的に検査される場合は抗原検査をおすすめします。

★Q 4. おう吐物で検査はできますか？

A 4. 当協会では、おう吐物での検査は行っていません。糞便での検査になります。

★Q 5. 検体の提出はどこで、何曜日にできますか？

A 5. 月曜日~木曜日の8:30~15:30、当協会の1F総合受付へ持参してください。

★Q 6. 結果はいつわかりますか？

A 6. 抗原検査については当日わかりますが、検査結果報告書の送付は提出日から2日後になります。遺伝子検査については提出した翌日にわかります。結果報告書の送付は抗原検査と同じになります。しかし、いずれの検査でも、陽性の場合には結果がわかり次第ご報告いたします。

★Q 7. 料金はいつお支払したらいいですか？

A 7. 検体提出時にお支払いいただくか、結果報告書に同封しております振り込み用紙をご利用ください。

★Q 8. 遺伝子検査と抗原検査は何が違うのですか？

A 8. ウイルスの検出感度が異なります。一部のデータでは抗原検査で偽陰性または偽陽性と判定される場合があるそうです。詳しく検査したい場合は、感度の良い遺伝子検査をおすすめします。

★Q 9. 結果が陽性の場合ほどの様にすれば良いですか？

A 9. 症状が無い方は、本人または事業者「病原体保有者」であることを認識してもらい、手洗いの励行、衛生面に気をつけていただき、感染の拡大を防ぐことを心がけてください。症状がある方は、速やかに医療機関を受診し、受診する医療機関でノロウイルス陽性であることを伝えてください。また、陽性の場合、感染後2～3週間してから再検査するのをおすすめします。なお、陰性確認が必要な場合は、遺伝子検査を実施するのが望ましいです。

★Q 10. ノロウイルスが発症した場合の治療法はありますか？

A 10. 現在このウイルスに効果のある抗ウイルス剤はありません。このため、通常、対症療法が行われます。特に、体力の弱い乳幼児、高齢者は、脱水症状を起こしたり、体力を消耗したりしないように、水分と栄養の補給を十分に行いましょう。脱水症状がひどい場合には病院で輸液を行うなどの治療が必要になります。下痢止め薬は、病気の回復を遅らせることがあるので使用しないことが望ましいでしょう。

★Q 11. 食品中のウイルスの失活化はどのようにすればよいですか？

A 11. 食品の中心温度85℃以上で1分間以上の加熱を行えば、感染性はなくなるとされています。

★Q 12. 調理台や調理器具はどのように殺菌したらよいですか？

A 12. ノロウイルスの失活化には、エタノールや逆性石鹼はあまり効果がありません。ノロウイルスを完全に失活化する方法には、次亜塩素酸ナトリウム※、加熱があります。調理器具等は洗剤などを使用し十分に洗浄した後、次亜塩素酸ナトリウム※（塩素濃度200ppm）で浸すように拭くことでウイルスを失活化できます。また、まな板、包丁、へら、食器、ふきん、タオル等は熱湯（85℃以上）で1分以上の加熱が有効です。
※塩素系の漂白剤（使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。）

★Q 13. ノロウイルス患者のふん便や吐ぶつの処理方法は？

A 13. 床等に飛び散ったノロウイルス患者のふん便や吐ぶつの処理するときは、使い捨てのエプロン、マスクと手袋を着用し汚物中のウイルスが飛び散らないように、ふん便、吐ぶつをペーパータオル等で静かに拭き取ります。拭き取った後は、次亜塩素酸ナトリウム※（塩素濃度200ppm）で浸すように床を拭きとり、その後水拭きをします。拭き取りに使用したペーパータオル等は、ビニール袋に密閉して廃棄します。（この際、ビニール袋に廃棄物が十分に浸る量の次亜塩素酸ナトリウム※（塩素濃度1,000ppm）を入れることが望ましい。）またノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することがあるので、ふん便や吐ぶつは乾燥しないうちに床などに残らないよう速やかに処理し、処理した後はウイルスが屋外に出て行くよう空気の流れに注意しながら十分に換気を行うことが感染防止に重要です。

※塩素系の漂白剤（使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。）